

事例

大分市在宅高齢者、身障者緊急通報センター事業

永生会（大分県） ☎870-0274 大分県大分市大字種具字南谷144番地 TEL 097-529-2316

活動の概要

標記事業は大分市からの受託事業であり、昭和62年10月から開始し、17年目を迎えています。大分市の人口約44万人のうち約2千人の1人暮らしの高齢者又は身障者がこのサービスを受けています。センターは特別養護老人ホーム清流苑に置かれ、24時間365日待機体制をとっています。

法人の概要

社会福祉法人永生会は、昭和54年7月に設立され、昭和55年4月に特別養護老人ホーム清流苑（50床）を開設し事業を開始しました。今年で法人設立25年目を迎えます。

現在の事業内容は特養100床、短期入所施設30床、ケアハウス50床、グループホーム9床、大分市認可保育園110人に加えデイサービス、ヘルパーステーション等14事業を行っています。

法人本部は大分市東部鶴崎地区に在り、大野川の清流を臨む高台に特養等主要な建物は立っています。

本来は大分市東部を事業範囲としていますが今年から市内中心部にも在宅の拠点を設け、3月より一部を開始し、4月から全事業を開始します。

- 経営施設数…10
- 法人全体の年間事業収入…1,100,000千円
- 主な経営施設
 - 特別養護老人ホーム清流苑
昭和55年設立 定員100名
 - ケアハウスジョリーメイト清流苑
平成7年設立 定員50名
 - 短期入所施設おあしすホーム

平成12年設立 定員30名

高田のぞみ保育園

平成13年設立 定員100名

実施施設の概要

- 施設名…清流苑
- 施設種別…特別養護老人ホーム
定員100名

施設の運営方針

在宅において、介護が困難となった高齢者を受け入れ、個々の人格を尊重し、生活を支援することを通し人生のラストステージを本人にも家族にも有意義であるようなサービスを提供します。

活動の内容

- 活動対象者…高齢者、身障者
- 活動の頻度…24時間 365日
- 年間延利用者数…約2,000名
- 活動開始年…昭和62年

■活動開始の背景（取り組みの経緯）

当法人の目指す理念の一つに「安心のよりどころ、安心のブランドづくり」があります。

地域の高齢者が安心して暮らすにはどのようなサービスが求められているのか、まさにこのような視点に立って開始した事業です。

日本で最初に緊急通報センターを始めた東京老人ホームを参考に、大分市へ働きかけ、昭和62年3月に大分市からの受託事業という形でスタートしました。現在では特養併設の緊急通報センターとしては、最も古いセンターとなりました。

■人材・資金面等での工夫、苦慮

事業の性格上24時間365日待機する必要があるため、センターを特養清流苑に置き日中は事務職員、夜間は夜勤者が対応する体制を取りました。

受託料としては大分市から約400万円をいただいておりますが、一般的な緊急通報サービスを考えると利用者1人当り月額2,000円程度かかるので、現在の利用者2,000名では年間4,800万円もの額になってしまいます。

これを考えれば、安価なコストで利用価値の高いサービスを提供できていると考えます。この運営コスト安が大分市での緊急通報事業の拡大に貢献していると考えています。

なお、運営の特長として、設立当初から「誤報歓迎」を基本としています。更に、委託契約とは別に法人で加入者へのコールサービス（安否確認）を特に問題を抱えていると推量される方にしています。このサービスを今年度からは全加入者に毎日専従職員が行っています。

これらの活動を通して問題があると考えられる時には、市内19か所の在宅介護支援センターと地域連携をとり安心の暮らしを支えています。

す。

■利用者の声、地域の反応

平成14年度実績で2,361件の通報があり、そのうち本当の緊急事態は51件です。その中には、心臓発作等、死の危険があるものも含まれ、病院の救急搬送等の依頼を行っています。

この事業には協力員という形で、利用者の近所の方々にボランティアとして登録してもらっています。このような方々は一人の高齢者の生活を支える上で大変重要だと考えており、緊急時も現場での対応等深夜にもかかわらず協力していただいています。

このような地域共生ともいえる体制は協力員のような人達のご理解の上で成り立っています。

■活動の成果、地域の影響、今後の課題

今後も地域の高齢者、身障者の安心づくりの拠点として、行政及び地域の協力員の皆様と協力してこの事業を推進してゆきたいと考えています。